

平成 30 年度第 2 回「ていねっていいね！区民の集い」議事録（概要）

- 1 開催日時：平成 30 年 11 月 28 日（水）17 時～18 時 15 分
 - 2 開催場所：手稲区民センター 2 階 区民ホール
 - 3 出席者：出席 60 名、欠席 10 名
 - 4 内容：以下のとおり
- (1) 次第 1 開会

(2) 次第 2 座長挨拶

【笹渕座長挨拶要旨】

9 月の北海道胆振東部地震では、思わぬ停電で皆さまも大変苦労されたことと思う。災害時の情報交換に課題を残されたと考えており、今後も安全・安心なまちづくりのためにいろいろと検討していきたい。

本日は来年の11月6日に区制30周年を迎えることから、記念期間中に活用するロゴマークの選定についての議事を行う。良いロゴマークを決めて素敵な30周年になるよう議論をよろしく願いたい。

(3) 次第 3 区長挨拶

【小林手稲区長挨拶要旨】

手稲区30周年を記念するロゴマークについては、北海道科学大学様に依頼し、メディアデザイン学科の学生の皆さまに大学の講義もある中でデザイン案の制作をいただいた。

ロゴマークは30周年を迎える来年から、区役所だけではなく、個人、企業、各団体の皆さまに自由に使っていただき、手稲区の一体感がより一層深まればと考えており、ご協力をお願いしたい。

また、6月の第1回区民の集いで説明した「ていぬ」の着ぐるみ3体目については、現在制作中でまもなく完成する予定。完成後の検査も行い、年明けに時期はまだ未定だが、貸出できるようになった際にはお知らせしたい。

(4) 次第 4 議事

ア 手稲区 30 周年のロゴマークの活用について

【涌島総務企画課長説明要旨】

- ・ 来年 11 月 6 日に手稲区は西区から分区して 30 年を迎える。
- ・ 平成 31 年度（来年 4 月から 1 年間）を 30 周年を記念する期間としたい。
- ・ ロゴマークは区役所はもとより、地域の皆さま、商店街・企業の皆さまが開催するイベントや行事などでポスターやチラシに使用していただくことで、手稲区全体で 30 周年を祝い、地域の一体感がより一層深まる機会にでき

ればと考えており、皆さま方の団体で積極的な活用をお願いしたい。

イ 手稲区 30 周年ロゴマークの選定について

【涌島総務企画課長説明要旨】

- ・ 配布資料のロゴマーク 3 案は、メディアデザイン学科の学生さま 14 名がボランティアでプロジェクトを立ち上げ、区内各所を自分たちの足で回るなど、手稲区の魅力を学びながら制作した。また本日ご出席の皆さまにもお話を伺うなど、ご協力をいただいたことに改めてお礼を申し上げる。
- ・ 本日はそれぞれのロゴマーク案に込めた想いを聞いていただき、採点によりロゴマークを決定したい。
- ・ これから各案 5 分間で説明してもらい、採点は「見た目・デザイン」、「企画・考え方」、「独創性・創造性」の 3 項目で行う。各項目の着眼点は採点表の下段に記載のとおり。

【学生代表挨拶】

- ・ 3 案の完成に至るまでの経緯をご説明する。第 1 回の区民の集いで協力いただいたアンケート調査のほか、ヒアリングでも手稲区についての詳しい話をお聞きすることができた。そのほかにも、手稲高校の学生にも協力していただき、たくさんのアンケートを集めることができた。
- ・ その後、手稲区の気になるところを巡り歩くフィールドワークを行った。星置の滝や特別に手稲山からの夜景などを見に行くことができた。
- ・ このフィールドワークで集めた手稲区の魅力を使ってデザインを起こし、大学祭で市民の方々に見てもらい、好きな傾向や気に入ってもらえるところを調査した。
- ・ 市民の方々や高校生の意見からは、「ていぬが好きだ」という声が多く、3 案は、①ていぬを大きく使うデザイン、②さりげなく使うデザイン、③ていぬを全く使わないデザインとバリエーションを変えて考えてきた。

【A 案説明要旨】

- ・ まず、手稲のいままでを振り返り、手稲は「人々の拠り所」、誰でも「帰ってこれる場所」、人を送り出して迎え入れる「皆の玄関」であり、「人との関わりが深く距離が近いまち」であるとまとめた。
- ・ 次に、手稲のこれからとしては、若者に焦点を当てて、手稲出身で今も住む若者やこれから学生などとして手稲を訪れる若者たちに対して、手稲はいつでも「戻ってこれる場所」であり、将来、手稲の思い出が心の支えになるような「心に残る」まちになってほしいと考えた。
- ・ それを踏まえて、コンセプトは「これからも」にした。「これからも」とは、30 周年を迎えても手稲はまだまだこれからで、はじまりに過ぎないとの思いがあり、また、皆をあたたく迎えてくれるアットホームなまちとして、手稲を支えている皆さんへ改めて感謝を伝え、これからもよろしくねという願いも込めたもの。
- ・ ていぬを大きく使ったのは、手稲の象徴であり、愛されていることなどか

らで、「これからも」というメッセージをていぬに伝えてもらいたいと考えた。

- ・ ロゴのポイントは、風船とていぬは手稲の未来への期待を込めてふくらんでいて、期待と気体を掛けたものである。たくさんの風船は手稲に集う人・物・自然が集まったもので、もっと上へ飛んで発展して行ってほしいという願いを込めた。

【B案説明要旨】

- ・ ロゴのコンセプトは、「街と自然のつながり、時のながれ」。
- ・ 全体の構成として、手稲を代表するものを多く取り入れた。円の上部に手稲山を配置し、そこから時計回りに春夏秋冬を表した。それらをつなぐ円の線は「つながり」という言葉を表している。左上にさくらの木、右下に紅葉の木を配置、これらは区民の方から、手稲は自然が豊かで四季がはっきりしているとの話を伺い、アイデアを得た。また、札幌スイカと大浜みやこかぼちゃは、手稲のことを調べた際にブランド品が存在すると知り、多くの方に知らなかった手稲の魅力を知って欲しいという願いを込めた。左上の雪だるまのスキーヤーはスキー場などウインタースポーツのイメージ、左下にある円の途中の結び目は「つながり」を表現。リボン結びであるのは、輪を大きくしていき、結び直せるようにとイメージした。
- ・ 「街と自然のつながり、時のながれ」をコンセプトとしたのは、制作チームのイメージと区民の皆さんのお話のイメージを合わせた結果である。
- ・ まず、制作チームでは、フィールドワークで住宅街と自然が身近に共存していることを感じた。手稲山からの夜景鑑賞では、市街の輝きの美しさと手稲山の雄大さを感じた。それらのことから、「街と自然のつながり」をコンセプトにした。
- ・ 「時のながれ」については、区民の方に手稲は自然が豊かで四季の移ろいをしっかりと感じられるという話、区役所からは手稲は30年前から常に進化を続け、まちの発展につながったという話を聞いたことから、これからも30年の時のながれを切らさずに続けて行ってほしいという想いで「時のながれ」をコンセプトに加えた。
- ・ ロゴを通じて伝えたいことは、これからも「人とまちと自然が調和した区」であってほしい、いつまでも「ていねっていいね！」と言えるようなまちであってほしいということ。

【質問】

<手稲稲山連合町内会 畑中会長>

- ・ ロゴの色を緑で統一した意図はなにか。

<学生回答>

- ・ 区役所から手稲のイメージカラーは緑と白がメインと聞き、単色でイメージ付かせるようにした。また、円の中のハートなど、ピンク色を少し入れてお祝い感を表現した。

<手稲区長>

- ・ 手稲山の裾野にある丸のイメージはなにか。

<学生回答>

- ・ 丸は太陽で、昼間の手稲山に見える太陽や夕日。放射線状の太陽にしなかったのは、昼間と夕日の太陽のどちらのイメージも持たせるため。

【C案説明要旨】

- ・ アンケート調査やヒアリングを通して、手稲は人と自然のつながりが深いまちであるということを再確認した。
- ・ また、フィールドワークによって、人と人のかかわりの深さ、手と手を取り合う様子、自然との暮らしなど手稲に関わるつながりに気付いた。
- ・ そうして固まったコンセプトは、「つながれ、」。
- ・ 手稲のたくさんのつながり、さらに、30周年を迎える年は、平成元年生まれの手稲区が新たな年号へとつながる年でもある。読点の後にはつながる対象が入り、これから先も終わらずに、これからもつながっていくことを表したコンセプト。
- ・ このコンセプトをもとに、完全オリジナルのデザインを考え、手稲でつながる人と自然を表現した。
- ・ ロゴのキーワード三つは、フィールドワークやアンケート調査から得た「自然、空、人」。
- ・ 「自然」は「手稲区といえば」ということを聞いた際に、手稲山や豊かな自然、緑色、川と答える方が多かったこと、また、フィールドワークで訪れた星置の滝の雄大さとそれが生活の近くにあることに驚いたことから、「山・川・滝」をロゴの要素とした。
- ・ 「空」は、青色が青空、朱色が夕焼け空をイメージしている。皆さんも手稲区で暮らしていて、思わず写真を撮りたくなるくらい空がきれいだと感じたこともあるかと思う。フィールドワークの際に撮影した空も背の高い建物が少ないことから、空が広く見えた。特に夕焼けは、真っ赤で特徴的。迫力があり、手稲らしい背景と感じ、デザインの要素として取り入れた。
- ・ 「人」は、今回のロゴづくりでは、たくさんの手稲区の方に協力いただいたこと。差し伸べる手でありながら、山にかかる雲のようなイメージ。また、もう一つ意味があり、手稲区をひらがなにした頭文字の「て」が隠れている。
- ・ そして30周年からなる光り輝く未来を全体の線を金色にすることによって表現した。手稲らしさを一つにつなげたデザインができたと思う。

【質問】

<手稲区長>

- ・ 数字の30の「0」の上半分を緑色にした意図はなにか。

<学生回答>

- ・ 手稲区といえば緑色、自然が多くあることから、緑色を入れるモチーフを山の形としたが、山だけを表したように見えてしまうと感じたため、別の部分にも緑色を入れたいと考えた。前田森林公園や近所の公園でも、ほかと比べ木々が多くて、緑がたくさんある。自然がたっぷりで、緑がたくさんあるということを印象付けたいとの思いから、「0」の上半分にも緑を足した。

【涌島総務企画課長説明要旨】（採点結果）

- ・ A案
見た目・デザイン：224点
企画・考え方：177点
独創性・創造性：163点
合 計：564点

- ・ B案
見た目・デザイン：237点
企画・考え方：192点
独創性・創造性：187点
合 計：616点

- ・ C案
見た目・デザイン：221点
企画・考え方：193点
独創性・創造性：183点
合 計：597点

- ・ 最高得点の616点のB案をロゴマークに決定する。

【涌島総務企画課長説明要旨】（感謝状贈呈など）

- ・ この区民の集いの場をお借りし、区役所から学生に感謝状の贈呈を行いたい。
- ・ ロゴマーク制作チームの学生の氏名紹介の後、手稲区長から感謝状贈呈。
- ・ 本日決定したロゴマークは区のホームページや広報さっぽろ1月号手稲区版で紹介する。
- ・ 11月30日から北海道科学大学で開催する「HUSキャンパスイルミネーション2018」のイベントの一つとして、E棟において、手稲区の魅力パネル展を行い、パネル展の中でもロゴマークを紹介する。同イベントは12月25日までで、皆さんにもぜひ見学いただきたい。

ウ その他
なし

(5) 次第5 閉会

【笹渕座長】

以上で平成30年度第2回「区民の集い」を終了する。

（以上により議事を終了、手稲区30周年ロゴマークはB案に決定）

以上